



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 2月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.180 2022.2

### 紹介内容 (1/1~1/31)

#### 1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 美里農改：女性農業者が職場の安全衛生を学ぶ研修会を開催しました
  - 登米農改：第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて、24ヶ月早期肥育巡回調査
  - 大崎農改：大崎4Hクラブ員が宮城県加美農業高等学校を訪問しました
  - 石巻農改：パソコン簿記研修会
  - 亘理農改：亘理地域農業普及活動検討会（第2回）を開催しました
  
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - 大河原農改：令和3年度第3回アグリウーマンステップアップ講座を開催しました
  - 大崎農改：若手女性農業者による農産加工施設見学を行いました
  
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 亘理農改：水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました
  
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 気仙沼農改：南三陸町産クロマツを使用した門松が県庁・合同庁舎に！
  - 栗原農改：令和4年産りんごのスタートを切る！りんごせん定研修会
  - 登米農改：登米地域で新規栽培者向けピーマン栽培講習会を開催
  - 亘理農改：亘理地域でりんごのせん定講習会が開催されました
  - 亘理農改：岩沼ハウス組合促成きゅうり現地検討会が開催されました！
  - 亘理農改：おおくまふれあいセンター出荷者研修会が開催されました！
  - 栗原農改：きゅうり栽培振り返り報告会を開催しました
  - 大崎農改：みやざきどどんこ館で花きの新品目作付についての研修を行いました
  - 石巻農改：令和3年度「にこにこベリー栽培管理研修会」に管内農家と参加しました
  - 亘理農改：【亘理・大河原普及センター共催】若手りんご生産者研修会の開催について
  - 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会の「せん定講習会」が開催されました

#### 2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
  - 大崎農改：加美町の長ねぎ生産法人でGAPに関する研修会が開催されました

### 3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 . . . . . 7
  - 大崎農改：あ・ら・伊達な道の駅，視察研修会開催
  - 気仙沼農改：丸大いもプロジェクト会議が開催されました
  - 気仙沼農改：鳥獣被害対策研修会を開催しました
  - 気仙沼農改：牛乳料理講習会を開催しました！
  
- ② 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援 . . . . . 8
  - 石巻農改：オリーブ巡回指導会

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○女性農業者が職場の安全衛生を学ぶ研修会を開催しました

令和4年1月4日

美里農業改良普及センター



近年、雇用を導入している経営体において女性農業者が雇用管理を担うケースが増えてきており、女性農業者のマネジメント能力の向上が必要となっています。また、農業における労働災害の発生件数は年々増加しており、安全で働きやすい職場づくりの取組が重要となっています。

美里農業改良普及センターでは、女性農業者の職場安全衛生に関するスキルアップを支援するため、安全衛生管理について学ぶ全2回の講座を企画しました。第1回講座は令和3年12月13日に行い、涌谷町でスクリーン印刷を行う株式会社メイジ宮城工場を視察し、工場見学と安全衛生に関する取組について伺いました。

(株)メイジ宮城工場は、職場の安全衛生について経営者・従業員が一体となって取り組んでおり、約17年間無事故・無災害期間を継続しています。その取組が評価され、平成26年に厚生労働大臣賞「奨励賞」を受賞されています。工場見学では、従業員の発案による数々の改善事例について紹介を受けました。

見学後の講義では、青沼取締役副社長より、従業員も「安全衛生に関わっている」という意識が必要であり、理解を促しながら進めることが重要であると説明され、参加者からは、従業員への働きかけ方などについて、熱心に質問が出されました。

第2回講座は1月に社会保険労務士を講師として、農業現場の安全衛生について講義を行う予定です。

#### ○第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて、24ヶ月早期肥育巡回調査

令和4年1月12日

登米農業改良普及センター



令和4年10月開催の全国和牛能力共進会鹿児島大会に向け、出品候補牛に対する24ヶ月早期肥育巡回調査が、1月6日に登米管内7戸の農家で行われました。

「全国和牛能力共進会」は、5年に一度全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会です。平成29年には宮城県で開催され、当県出品牛が優秀な成績を収めています。

調査は、出品区分第6区、第7区、第8区の肥育牛（肥育終了24ヶ月齢以内）候補を対象に実施しました。登米管内は、県内全体の候補牛46頭のうち14頭を占め、高い評価を受けています。

巡回調査は、昨年5月から2ヶ月に1回のペースで体重、体高、胸囲、腹囲、血液検査を行い、5回目の今回から超音波検査（エコー）による肉質診断も調査項目に加わりました。それぞれの牛舎で測定結果を基に、これからの飼養管理やビタミン追加のタイミングについて、畜産試験場、NOSAI、全農など関係者を交えて検討しました。飼養管理者からは、通常より短い肥育期間で仕上げるため、定期的な調査は心強いとの声が聞かれました。

鹿児島大会に向け、地域一丸となって出品対策に取り組んでいきます。

#### ○大崎4Hクラブ員が宮城県加美農業高等学校を訪問しました

令和4年1月18日

大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターと加美農業高等学校では、地域の若手担い手を育てていく試みの一つとして、管内の若手農業者と農業高校生の交流を活発にしていくことを計画しています。

今回は大崎4Hクラブ員と高校生の交流会を開催するための事前準備として、大崎4Hクラブの役員が加美農業高等学校を訪問し、校長先生や農場長と打合せを行いました。

交流会は2月に、宮城県農村青少年クラブ連絡協議会で今年作成した、会員紹介用の冊子である「農家図鑑」を活用しながら、高校生の農家への疑問に、大崎4Hクラブ員が答える形式を予定しています。農業高校生にとっても、大崎4Hクラブ員にとってもよい刺激になることを期待しています。

普及センターでは、今後も新規就農者や青年農業者を支援していきます。

○パソコン簿記研修会  
令和4年1月28日  
石巻農業改良普及センター



石巻管内では、自らの経営改善と経営管理能力の向上を目指す若手農業者が多く、昨年度からパソコンによる簿記記帳に関する研修会を開催してほしいとの要望がありました。

そのため、普及センターでは、昨年8月に続き、今年度第2回となる農業簿記ソフトを利用した簿記記帳に関する研修会を開催しました。今回は償却資産の処理方法や決算のための演習を行いました。参加された方々全員が問題無く操作されており、パソコンによる簿記記帳の知識を十分に習得していただけたものと思われま。

普及センターでは、今後も若手農業者を中心とした経営管理能力の向上に向けた支援を行ってまいります。

○巨理地域農業普及活動検討会(第2回)を開催しました  
令和4年1月28日  
巨理農業改良普及センター



1月25日に、今年度2回目の巨理地域農業普及活動検討会を開催しました。

この検討会は、外部の評価委員(市町、農協、消費者代表、商工業団体、農業者代表等)に対して、普及活動の取組状況や次年度計画を説明して、活動手法や計画内容などの評価や課題解決に向けた助言をいただくため、毎年2回開催しています。

今回の検討会では、重点的な活動(プロジェクト課題)の4課題について、取組状況を報告するとともに、活動最終年となる3課題については、スライドを使って、取組経過や活動成果などを説明しました。また、次年度の普及指導計画案の概要を説明するとともに、新たに設定したプロジェクト課題(3課題)の内容を説明しました。

委員からは、震災後に設立された法人の維持・発展や後継者確保は喫緊の課題であり、これら課題への取組みを評価するとの意見をいただきました。また、

SDGsの取組に対しても実践者の視点からの貴重な助言をいただきました。

委員からの意見や助言を、今後の普及活動に活かしてまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○令和3年度第3回アグリウーマンステップアップ講座を開催しました  
令和4年1月11日  
大河原農業改良普及センター



令和3年12月7日、令和3年度第3回アグリウーマンステップアップ講座として、みやぎ農業振興公社の白石牧場において先進地視察研修を行いました。

本講座は次世代を担う女性繁殖牛農業者等を対象に、農業情勢や飼養技術・経営等を学ぶ目的で開催したものです。第1回及び第2回講座は経営管理に関する研修でしたが、第3回講座はICT機器を用いた繁殖管理を中心に、大規模農場における飼養管理について学びました。

当日は、令和3年8月に完成した繁殖牛舎において、場長から白石牧場の概要や繁殖管理について説明いただきました。その後、牛舎の中を見ながら、昼間分娩やICT機器の利用状況について、参加者各自が積極的に質問をしていました。

普及センターでは、今後も参加者の個別の状況に応じた支援を行うことにより、飼養管理技術の向上を図るとともに、参加者同士の交流の場づくりにも引き続き努めてまいります。

○若手女性農業者による農産加工施設見学を行いました  
令和4年1月27日  
大崎農業改良普及センター



1月20日、大崎管内の若手女性農業者2名による味噌の加工場見学を行いました。

今回は、「食材王国みやぎ食の伝え人」として、味噌の出前講座などで活躍している古川の坂井悦子氏を訪問し、製造許可を受ける際の注意点や、機器の説明をいただきました。味噌加工を始めたきっかけや、顧客の要望に応じた製造や販路など、経験豊富なベテラン農業者の話に、参加者は真剣に聞き入っていました。また、参加者からも、熟成中の温度管理などの質問が積極的にされました。

普及センターからは、農産加工における衛生管理の注意点や、女性農業者への補助などについて紹介を行いました。見学後の意見交換では、次年度も野菜生産や加工の視察研修を望む要望が出され、それぞれから将来ビジョンが語られるなど、前向きな場となりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、女性農業者の資質向上と交流を推進していきます。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました

令和4年1月20日

亘理農業改良普及センター



1月18日に岩沼市を会場に、令和3年産の乾田直播栽培を振り返り、次期作に向けた意見交換を行う場として、水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました。農業者や関係機関等、計40名が参加しました。

検討会の前半では、普及センターから生育調査結果について説明した後、古川農業試験場と東北農業研究センターから講演がありました。東北農業研究センターからは、生育量を確保するためにはスタートの苗立ち数が重要であることや、苗立ち数を確保するためのほ場づくりのポイント等について説明がありました。さらに、低コスト化するためには、機械の汎用利用(畑作物との輪作)や収量の確保が必要であることが説明されました。

後半では、参加した農業者からの今作の反省点等についての話があり、それに対して研究機関からは、改善のための具体的な助言をいただく等、活発な意見交換がなされました。

### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○南陸町産クロマツを使用した門松が県庁・合同庁舎に!

令和4年1月4日

気仙沼農業改良普及センター



正月飾りに欠かせない枝もの用クロマツは、これまで県内での生産・出荷がありませんでしたが、平成30年から南三陸町内で新たに栽培が始まり、4年目となる今年からいよいよ出荷がスタートしました。

これを記念して、県内の生産者等が組織する「みやぎクロマツ生産拡大連携協議会(事務局:株式会社南三陸 Pine Pro(パインプロ))」から、県庁行政庁舎及び気仙沼合同庁舎にそれぞれ高さ2.4mと1.5mの立派な門松が寄贈されました。

(※県庁正面玄関入口:R3年12月20日~R4年1月13日、気仙沼合同庁舎正面玄関入口:R3年12月21日~R4年1月14日まで展示)

#### ○令和4年産りんごのスタートを切る! りんごせん定研修会

令和4年1月13日

栗原農業改良普及センター



1月12日、栗原市高清水福塚にて、栗原市果樹連絡協議会のりんごせん定研修会が開催されました。

せん定はその年のりんごの作柄を左右する重要な作業です。栗原市果樹連絡協議会では、毎年この時期にせん定の研修会を実施し、会員相互の技術の研鑽に努めています。

令和3年産りんごは、4月の降霜により、収量、品質ともこれまでにない大被害を被りました。「令和4年産は良いりんごを作りたい」、「うまいりんごを消費者の方々へ届けたい」という思いで、せん定の研修会にも力が入ります。幸いに、令和4年産りんごの花芽の着生状況は良好なことから、生産者はりんごが樹になる姿を描きながら作業を進めることができるほ

か、古い枝を新しく力のある枝へ更新しやすく、良い樹体を形成できそうです。

これからの季節、寒さ厳しい中ではありますが、品質の良いりんご作りに向け、生産者達の技が光りません。

**○登米地域で新規栽培者向けピーマン栽培講習会を開催**  
令和4年1月19日  
登米農業改良普及センター



1月17日、JAみやぎ登米の主催で、新規作付け拡大に向けたピーマン栽培講習会が開催され、農業者15名が出席しました。

JAみやぎ登米では、水田からの転作を進める取組として、園芸品目を推進しています。令和3年度からは、初期投資が少なく、栽培にかかる労働負荷も少なく、新たに取り組むやすいピーマン栽培の拡大を進めています。令和3年度は、登米市内の生産者数名が試作を行っていますが、次年度のさらなる作付け拡大を目指し、講習会が開催されました。

講習会では、全農みやぎから宮城県産ピーマンの販売状況について、有限会社兵藤種苗商事からは栽培技術について、それぞれ説明がありました。普及センターからは、今年度の試作において発生した生理障害やその対策について説明しました。また、今年度作付けした生産者から、栽培から出荷に関する取組状況の報告がありました。参加者からは、現状の経営品目との作業競合などをみながら、新たな品目として取り組めるか前向きに検討したいとの感想が聞かれました。

今後も普及センターでは、JAみやぎ登米や関係機関と連携し、園芸品目の生産拡大に向けた支援を行っていきます。

**○巨理地域でりんごのせん定講習会が開催されました**  
令和4年1月19日  
巨理農業改良普及センター



巨理管内は県内有数のりんご生産地です。1月18日、巨理町神宮寺のりんご園にて、巨理名取果樹振興協議会主催の「りんごせん定研修会」が雪の中開催され、管内生産者等約40名の出席がありました。

研修会では、農業・園芸総合研究所果樹チームの小島上席主任研究員他、チーム員2名が講師となって「ふじ（マルバカイドウ台、M.26台）」のせん定の実技指導を行いました。管内では定植後50年を超える古いりんごの樹が多く、日当たり改善を主として、枝の配置についてのアドバイスをいただきました。

今後、各地域でも、せん定講習会の開催が計画されており、今回の全体研修会でのアドバイスを参考に実施されます。普及センターでは、各地域で開催される研修会や定期的な巡回指導等で技術指導を行い、当地域の品質の高いりんごの安定生産を支援していきます。

**○岩沼ハウス組合促成きゅうり現地検討会が開催されました！**  
令和4年1月25日  
巨理農業改良普及センター



1月17日に岩沼ハウス組合のきゅうり促成栽培現地検討会が行われました。現地検討会には、組合員のほか、JA名取岩沼の担当者、種苗会社、普及センターが参加し、生産者7戸のほ場を巡回して、生育状況等や今後の管理について検討を行いました。

定植は12月8日から20日の間に実施され、早い方で収穫が始まっています。定植後は外気温が低い日が続いたものの、生産者はハウス内の温度と湿度を適切に管理したため、生育は概ね順調でした。

今作から新たに1戸の農家が二酸化炭素発生機を導入して、組合全員が二酸化炭素施用をすることになったため、普及センターから、機器の効果的な使い方や灌水・追肥管理について、説明を行いました。

普及センターでは引き続き、栽培講習会や巡回等を通して、きゅうりの栽培技術支援を行っていきます。

**○おおくまふれあいセンター出荷者研修会が開催  
されました！**  
令和4年1月25日  
巨理農業改良普及センター



1月19日に、株式会社ライフサポートわたりが主催したおおくまふれあいセンター出荷者研修会に、普及センター職員が講師として参加しました。

午前中はJAみやぎ亘理山下支所、午後はJAみやぎ亘理本所にて、2回に分けて研修会を開催し、合わせて約85名の産直出荷者の参加がありました。

研修会では、普及センターの野菜担当と果樹担当から、春夏野菜の栽培のポイントとシャインマスカットの春作業について、HACCPに沿った衛生管理の制度化についての3つの内容について説明を行いました。参加者は熱心に聞いている様子で、より良い農作物を出荷しようとする意気込みが感じられました。

普及センターでは、今後も直売所の生産拡大支援を行ってまいります。

**○きゅうり栽培振り返り報告会を開催しました**  
令和4年1月26日  
栗原農業改良普及センター



栗原普及センターでは、1月18日、JA新みやぎ志波姫支店にて、継続的改善手法（SPDCA）できゅうり生産に取り組む生産者4戸及び1法人（栗原市志波姫・若柳地区）を対象に、「栽培振り返り報告会」を開催しました。生産者の方々は、令和元年度から互いのハウスの視察や、目標設定シート・栽培振り返りシートを活用したSPDCAの取組により、栽培技術の向上を図ってきました。

振り返り報告会は、これまで各生産者が取り組んできた品種の比較や栽植密度の検討、環境制御などの取組について、成果や感想を報告し、質疑応答や意見を交わしたものです。参加者は自分の成果を再確認するとともに、仲間の成果を聞いたことで、次作への改善意欲や気づきが生まれたようでした。

今回の取組により、生産者に定着したSPDCAサイクルをより発展させていくことで、さらに栽培技術がレベルアップすることを期待します。

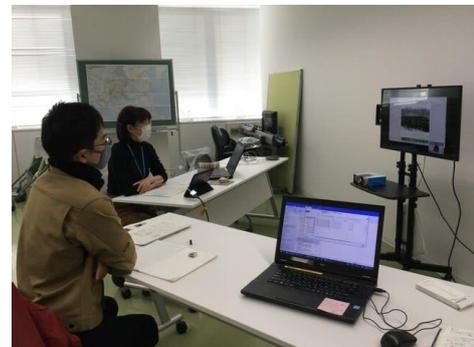
**○みやざきどどんこ館で花きの新品目作付につい  
での研修を行いました**  
令和4年1月28日  
大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、1月17日に、加美町にあるみやざきどどんこ館と連携し、花きの新品目作付けについての研修を行いました。みやざきどどんこ館では、産直部会で花きの新品目作付けに取り組みたいという機運が高まっており、普及センターからは、露地栽培できる花きについて情報提供をしました。

今後は普及センターで紹介した品目から、部会員が作付けする品目を選定し、試験栽培を行うとともに、栽培技術等の情報提供を行う予定です。普及センターでは、今後も大崎地域の花き栽培の支援に取り組んで参ります。

**○令和3年度「にこにこベリー栽培管理研修会」に  
管内農家と参加しました**  
令和4年1月28日  
石巻農業改良普及センター



宮城県育成品種の「にこにこベリー」の栽培技術向上のため、にこにこベリー栽培展示ほ担当農家等及び普及員を対象としたセミナーがWeb会議方式で開催されました。

はじめに、県農業・園芸総合研究所の職員より、Webカメラを設置している県内4つの展示ほの12月上旬から1月上旬にかけて7日おきの画像データが示され、それぞれの頂花房や腋花房の開花状況や、草高の違いにより生育ステージが一目でわかることが紹介されました。また、厳寒期の「にこにこベリー」の栽培管理のポイントとして、令和3年12月中旬までは気温が高く推移したが、12月下旬から令和4年1月にかけては気温が低く推移していること、2月は平均気温は低いですが日射量は9月並みになり、日長時間は11時間となることで10月と同程度になることが説明されました。そのため、2月4日の立春以降は温

度管理の切り替え時期となり、草の姿を見て、電照時間を加減して欲しいとのことでした。

各地域からの情報交換では、4か所の展示ほ管轄の普及センター及び担当農家より、過去1ヶ月のウイークリーレポートを活用した栽培管理の紹介が行われ、燃油が高騰していることから、最低温度を下げる管理をしている農家もあれば、十分加温して収量を確保しようとする農家も見られました。

参加した法人のいちご担当からは、他生産者の温度管理や草姿を一度に確認することができ、有意義であったと感想をいただきました。普及センターでは、今後ここにこべリーの栽培技術向上に取り組んでいきます。

## ○【亘理・大河原普及センター共催】若手りんご生産者研修会の開催について 令和4年1月28日 亘理農業改良普及センター



亘理管内は、県内有数のりんご生産地です。1月20日、亘理農業改良普及センターでは、大河原農業改良普及センターと共催で、両管内の若手果樹生産者を対象に、「若手りんご生産者研修会」を開催しました。参加者は15名でした。

県内では、親世代からりんご園を引き継ぎ、高齢化したりんご樹も多いため、今回の研修では、改植、新植等を進めていくため、国の果樹関連事業について、県園芸推進課より情報提供をいただきました。

また、樹齢に合わせたせん定方法の実技研修も行い、県指導農業士である結城喜和氏（亘理町）を講師として、樹齢約50年のマルバカイドウ台木等で実演を行いました。講師からは、基本的な枝の切り方の他、将来の枝の構成に向けた準備と今年の収量を極端に減らさないためのせん定方法等について、丁寧な解説がありました。参加者は、熱心に学ぶとともに生産者同士の交流を深めていました。

普及センターでは、今後も巡回指導や研修会等を通じて、りんご栽培技術の向上や担い手育成に向けた支援を継続してまいります。

## ○JAみやぎ登米りんご生産部会の「せん定講習会」が開催されました 令和4年1月31日 登米農業改良普及センター



1月27日に、JAみやぎ登米りんご生産部会による「せん定講習会」が登米市中田町八幡山のりんご園にて開催され、19人の部会員が参加しました。

まず初めに、普及センターから、令和4年産の防除暦と農薬のローテーションの考え方について説明しました。

続いて、県農業・園芸総合研究所の研究員が講師を務め、わい性台木の「ふじ」のせん定について、成木と若木の2本で実演し、せん定の考え方について説明がありました。

さらに、一部の若手生産者が取り組んでいる樹体ジョイント栽培のせん定についても、接ぎ木5年目の樹体で実演を交えて説明がありました。

せん定は、有望な枝や花芽を残しつつ、不要な枝を落として樹勢と樹形を整えるために行いますが、講師からは、原則を踏まえつつ、1本1本の数年後の樹形や園地の姿を想像しながらせん定した方が良いと解説がありました。奥の深さに、参加者は熱心に耳を傾けていました。

昨年は、4月の低温による凍霜害が登米地域でも広範囲に発生して収量や品質が低下したこともあり、生産者の今年に懸ける意気込みが感じられる講習会となりました。

普及センターでは、今後もりんごの技術情報の提供などを通じて、産地を支援してまいります。

## 2. 農畜産物の安定供給

### ①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

## ○加美町の長ねぎ生産法人でGAPに関する研修会が開催されました 令和4年1月28日 大崎農業改良普及センター



1月19日に加美町で長ねぎを生産している法人に対して、みやぎ産業振興機構の事業を活用した専門家派遣による「GAP取得に向けた研修会」が開催されました。

研修会は令和4年2月までに計3回開催される予定で、第1回となる今回は、はじめに座学で「なぜGAPが必要なのか」と題し、収穫・調製工程における作業手順の明確化や危険な作業に対するリスク評価について学びました。その後、実際にねぎを調製・出荷する作業場や農業生産管理システムを確認し、認証取得のために改善が必要な箇所の指導が行われました。

研修会に参加した従業員6名は講師からの質問に積極的に回答し、質問も行うなど前向きな姿勢でした。若い従業員も多く、今後協力してGAPに取り組まれることが期待されます。

普及センターでは、引き続きGAP実践の取組や認証取得に向けた支援を行っていきます。

### 3. 持続可能な農業・農村の構築

#### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

#### ○あ・ら・伊達な道の駅、視察研修会開催

令和4年1月13日

大崎農業改良普及センター



12月23日に「あ・ら・伊達な道の駅」の視察研修会が、名取市と仙台市にて開催されました。

「あ・ら・伊達な道の駅」では、ぶどう「シャインマスカット」の生産・販売の拡大に向け、令和3年からプロジェクト事業として取り組んでいます。今回の視察研修では、午前中に県農業・園芸総合研究所で行われたせん定講習会で、苗木から成木までの実際の姿とせん定方法を見学しました。続いて、午後にJRフルーツパーク仙台あらはまで、もぎ取りを行っている施設や生産状況を視察しました。

参加者の多くは約1年前に苗木を植え付けたばかりですが、より早く、そしてより多くの収穫と販売が出来るようにと、栽培管理について積極的に質問をしていました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、地域の活性化に向けたぶどう「シャインマスカット」の生産と販売を支援していきます。

#### ○丸大いもプロジェクト会議が開催されました

令和4年1月13日

気仙沼農業改良普及センター



令和3年12月21日に、大谷公民館において丸大いもプロジェクト会議が開催されました。

丸大いもは、気仙沼市本吉町大谷地区で栽培された馬鈴薯で、海に近い特徴を活かし、海藻類を肥料として栽培されたものです。戦後、品質の良さから日本一と評されたこともありましたが、その後、北海道などの大産地に押され、生産量は激減しましたが、道の駅「大谷海岸」と栽培農家が「丸大いも」を復活させようと、令和元年から復活プロジェクトに取り組み始めました。

プロジェクト会議では、令和3年度販売状況の総括等について報告があった他、普及センターから馬鈴薯の病害対策やブランド化に取り組むためのポイント等について説明しました。

道の駅「大谷海岸」は、東日本大震災後、仮設店舗で営業していましたが、令和3年3月にリニューアルオープンしました。「丸大いも」も含めて、気仙沼市は確実に復興の歩を進めています。

気仙沼市を訪れる際は、道の駅「大谷海岸」のFacebookを是非御確認ください。楽しくて美味しい情報を御紹介しています！

#### ○鳥獣被害対策研修会を開催しました

令和4年1月28日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼普及センターでは、昨年度から南三陸町歌津地域を対象に「集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業」を活用し、効果的な鳥獣被害対策ができるよう支援しています。

歌津地域の田表・中在地区では、今年度に電気柵の設置に向けて準備を進めてきました。1月17日に（一社）サスティナビリティセンターの相澤あゆみ氏を講師に迎え、電気柵の設置研修会を行いました。

電気柵の設置手順を教わりながら実際に設置していき、適切な設置方法を学ぶ良い機会となりました。

地域住民が連携して対策することで安心して営農活動が行えるよう、今後も継続して支援していきます。

### ○牛乳料理講習会を開催しました！

令和4年1月28日

気仙沼農業改良普及センター



1月21日に、気仙沼市のキッチンスタジオで、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会と共催で、牛乳料理講習会を開催しました。

講習会には21人の会員が集まり、みやぎ食育コーディネーターの千葉マキ氏を講師に迎えて、管内の農事組合法人モーランドの牛乳や乳製品を使用した料理4品の作り方を実習しました。レシピをもとに参加者それぞれが工夫しながら料理を作り上げました。参加者からは、「自宅でも作ってみたい」、「娘にレシピを教えたい」などの声があり、大変好評でした。

実習後には講師から牛乳や食物繊維を摂取する重要性などを講話していただき、充実した講習会となりました。

## ②大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

### ○オリーブ巡回指導会

令和4年1月28日

石巻農業改良普及センター



移植のための強せん定 左がせん定前、右がせん定後

石巻市では平成26年からオリーブの栽培を行っており、現在4haあまりの栽培面積となっています。今年で栽培開始から7年目となりますが、幼木期の初期収量を上げるため、当初3m間隔で植栽（※計画

密植）していた樹体も、まもなく隣の樹と重なるほどに大きく生長してきています。

このため、新たに圃地を造成し、1本おきに移植することとしましたが、大きく生長した樹体を移植するためには、地上部の切り詰めや根廻などを行う必要があります。そこで、1月25日に移植に向けた指導会が開催されました。

講師には（株）アライオリーブの荒井雅信社長をお迎えし、移植樹のせん定方法や根廻など、実技を交えながら実習を行いました。通常のせん定とは異なり、移植樹は地上部を大きく切り詰めるため、移植後の樹冠容積回復にはやや年数を要しますが、移植樹が健全に生育するよう、思い切ったせん定を行いました。

普及センターでは、これまで造成地の土壌診断などの支援を行っていますが、今回の移植樹が健全に生育するよう、今後も技術支援を行っていきます。

※計画密植：果樹を栽培する場合、最初の数年は樹体が小さいので、本来必要な間隔（オリーブでは6m×6m）よりも狭い間隔で植栽し、樹の密度を高くして面積あたりの収量を上げるという考え方。

やがて樹種ごとの適性間隔にするため、間伐や移植を行う必要があるが、仮に間伐を行ったとしても、その時点ですでに苗木代と育成費以上の収益を上げているため、このような植栽を行うことがある。



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亙理>  
〒989-2301  
亙理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.180

発行日:2022年2月21日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp